

説良シ、

〔夫木和歌抄^{二十七}〕十題百首

寂蓮法師

うき身にはさいのいき角えてしかな袖のなみだもとをざかるやと

〔明良洪範^{十六}〕遠州濱松ノ城ハ駿州今川家ノ臣鈴木兵庫助ガ築キシ城也ト云、此ノ西ノ方ニ犀ガ堀ト云堀有リ、土俗ノ説ニ、昔此堀ヘ犀ガ落テ溺死セシ故、犀ガ堀ト云ト云リ、此説取リ難シ、犀ハ異國ノ獸ニテ、日本ニハ居ズ、

〔倭名類聚抄^{十八}〕象

四聲字苑云、爲^{亦作象}筆跡小異耳、玉篇以爲爲古文非^略

〔箋注倭名類聚抄^七〕玉篇象爲古文、按象爲筆跡小異耳、玉篇以爲爲古文非^略、按説文云、象、長

鼻牙、南越大獸、三年一乳、象耳牙四足之形、南山經、禱過之山多象注、象獸之最大者、長鼻、大者牙長

一丈、左傳正義引南州異物志云、象、身倍數牛、而目則如豕、與此云長鼻、眼細牙長合、李時珍曰、象有

灰白二色、形體擁腫、面目醜陋、大者身長丈餘、高稱之、大六尺許、肉倍數牛、目纔若豕、四足如柱、無指

而有爪、甲行則先移、左足臥則以臂著地、其頭不能俯、其頸不能回、其耳下彈、其鼻大如臂、下垂至地、

鼻端甚深、可以開合、中有小肉爪、能拾針芥食物、飲水皆以鼻卷入口、一身之力皆在於鼻、故傷之則

死、耳後有穴、薄如鼓皮、刺之亦死、口內有食齒、兩吻出兩牙、夾鼻、雄者長六七尺、雌者纔尺餘耳、

〔干祿字書^{上聲}〕象爲^{上通}

〔類聚名義抄^八〕象^{キサ}

〔日本釋名^中〕象^{キサ}、さばさし出る也、牙の長くして、さし出たるけもの也、

〔東雅^{十八}〕象^{キサ}、象は西南夷の獸也、古の時此國に來れりとも聞えず、然るを呼びて、キサと云

ひしは、其牙によりて、竟に獸の名の如くなりしと見えたり、倭名鈔に、木部に唐韻を引て、櫛は木

文也、漢語抄にキサといふ、或説にキサは蚶之和名也、此本文、與蚶具文相似、故取名、と註せり、さら